

平成 26 年度 第 1 回那珂市行政評価外部評価委員会

日時 平成 26 年 7 月 8 日 (火) 午後 2 時～午後 4 時 40 分

場所 那珂市役所 本庁舎 5 階 504 会議室

出席者：伊藤 伸 委員、委員他 4 名

欠席者：なし

事務局：車田行財政改革推進室室長、寺山行財政改革推進室室長補佐、猪野行財政改革推進室係長

1 開会・市長メッセージ要旨

市長に就任する以前から市が行う事業を市民の理解を得ながら行うことの重要性を指摘しておりました。この 2 年は事業仕分けを実施し、市民とともに市政運営を行ってきましたが、今年は事業仕分けで培ったノウハウ、特に市民判定人方式を活用し、市民感覚による評価を行うことを狙いとしておりますので、皆さんに的を射た質問をしていただくことにより、市の事業に対する客観的な評価をいただくことを期待しています。

2 協議

(1) 委員長選出

要綱に委員長は委員の互選によるとあるが、委員より意見が無いため事務局案により伊藤委員を委員長に選出、副委員長には委員長の指名により豊崎委員を選出した。

(2) 平成 26 年度那珂市行政評価外部評価について

事務局から、那珂市で行政評価を継続実施している理由と本年度に予定している外部評価と事業仕分けの違いについて説明した。

- ・来年度より地方交付税の算定替により 5 年にわたり、毎年 1 億円程度減額されること
- ・那珂市では平成 21 年度より外部評価を実施し、24,25 年度は事業仕分けを行ったこと
- ・以前の外部評価は大学教授を委員長に県職員 OB、市内の団体代表を委員として 3 年間実施したこと
- ・今年度は市民判定人方式により実施し、本市と類似した自治体の職員に外部評価委員をお願いしたこと
- ・市独自の事業シートを用いて評価を行うこと

質問 事業シートは外部評価を行う 6 事業だけ作成するのか。

→全体で約 700 の事業あり、そのうち人件費や市の関与が低い事業以外の事業約 220 の事業シートを作成させている。

質問 市民判定人に学習する機会を準備するか、簡単な方法で意見を述べられるようにした方がいいのではないか。

→市民判定人を決める段階では評価する事業を明記し、本番の前には実際の作業の仕方を説明し、事前に担当職員を同席させて質疑応答できる時間を設けたい。また、当日使用する評価

シートは今後検討する。

質問 今後の流れは。

→2回目の委員会で評価する事業を決定し、3回目の委員会は市民判定人を交えて開催し、11月8日に本番を迎える。

質問 評価するのは市民判定人だけか。

→市民判定人の評価を優先するが外部評価委員、市民判定人両方とも評価を出していただく。なお市民判定人からの質疑応答は考えていない。

質問 市民が当事者であることを意識してもらうためにも下準備に時間をかけたほうが良いと思われるが。

→3回目の委員会にはまず市民判定人に概要説明をし、質問を出してもらって、それを外部評価委員の当日質問に加えてもらうことを考えている。

質問 市民判定人は400名からの抽出ということか。

→住基から地区別に無作為抽出して行う。

質問 今回の外部評価の目的は。

→評価に客観性を持たすことと市民に対する説明責任を果たすことを目的としている。

(3) 外部評価対象事業の選定について

事務局から、全事業のなかから候補とする事業の抽出手順について説明した。

・全事業から財務的な支出・人件費・市に選択する余地が無い事業等 26年度評価対象外事業、外部評価・事業仕分けですでに評価した事業を抜いた 109事業を候補とした。

質問 今年度の事業評価対象事業を700から絞った最終決定はどのように行ったのか。

→50万円以上の事業で市の関与余地があるものについて、今年度または次年度に評価することとし、今年度対象とした事業を各課に報告させ、行革室で確認した。他の事業も概要と指標値は記入させている。

質問 事務事業シートを作成する際、成果指標がおかしいときがあると思うが、指標が変わることはあるのか。

→総合計画にある指標は動かさないが、違和感があるものは見つけ次第変えてもらっている。

質問 次回に対象事業を決めるということだが、それまでに作業することはあるか。

→選定事業は多くて6事業であるので、全員優先順位をつけていくつか選んでほしい。

意見 職員の資質向上を考えれば、仕分けの対象になった人だけでなく、若手職員に会場にきてもらっている例もあるので検討してもらいたい。

3 その他・閉会

事務局から、次回は8月7日(木)午後2時から中央公民館で行う予定であり、対象事業が決まり次第その事務事業シートをお渡しし、読み合わせ等を行いたい旨説明した。